

平成28年度 鎌倉養護学校 学校目標

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指して、各学部の内容の標準化に向けた取組を推進し、各学年・各学部の教育内容が系統かつ体系的に組み立てられた教育課程を整備する。	(1)自立と社会参加を目指す学校研究の取組を基に、各学部、学年の教育内容の標準化に向けた取組を進めキャリア教育体制の整備を図る。 (2)「生徒による授業評価」の整備とともに多角的な授業評価を行って指導の積み上げを図る。	(1)①各学年、学部の指導内容を系統的な観点から整理する。 (1)②各学年、学部の指導内容の体系的な見える化を図る。 (2)①評価シートの質問内容や回答方法を検討し、授業改善につながる指導上の留意点を抽出する。 (2)②指導の積み上げにつながる授業評価システムを整備する。	(1)①指導内容を系統的な観点から整理することができたか。 (1)②体系的な見える化を図ることができたか。 (2)①質問内容や回答方法を工夫し授業改善につながる指導上の留意点を整理することができたか。 (2)②指導の積み上げにつながる授業評価システムを整備したか。
2	(幼児・児童)生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、よりよく生きるための多様な教育的ニーズに対応した支援・指導を組織的・連携的に行なう。	(1)多様な教育的ニーズに対応した支援・指導を組織的・連携的に行う。 (2)多様な教育的ニーズに対応する各種専門性の維持向上を図る。	(1)個別教育計画の策定を通して合理的配慮を含む個々の教育的ニーズを把握し、組織としての共通理解の下、専門職等との連携を図りながら成果の積み上げを図る。 (2)校内研修の系統性や段階性を整理し、本校独自の課題に沿った研修内容を組み立てて専門性の維持向上につなげる。	(1)①個々の教育的ニーズを個別教育計画等に記録し教員間で共有することができたか。 (1)②個々の教育的ニーズについて、専門職等との連携を図りながら支援・指導することができたか。 (1)③支援・指導の成果の記録と共有化を図り、指導の積み上げにつなげることができたか。 (2)本校独自の課題に沿った研修内容を組み立てることができたか。
3	進路指導・支援	・一人ひとりが将来をより豊かにより自分らしく生きるために、発達段階や特性に応じた社会生活に移行できる進路指導・支援を行なう。	(1)学部や学年進行に応じた段階的で系統的な進路指導を組織的に実施する。 (2)清掃技能検定参加に向けた取り組みを進める	(1)①進路専任と各学部との協働体制の充実を図る。 (1)②各学部、学年の進路指導内容を段階的・系統的に整理する。 (1)③各学部、学年の進路指導内容の見える化を図る。 (2)清掃技能検定検討会議に出席するとともに、参加に向けた校内の条件整備を進める。	(1)①進路専任と各学部との協働体制の充実を図ることができたか。 (1)②進路指導内容を段階的・系統的に整理したか。 (1)③進路指導内容の見える化を図ることができたか。 (2)①清掃技能検定検討会議に出席したか。 (2)②参加に向けた校内の条件整備を進められたか。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、障害のある子どもの理解者・支援者を増やすために地域とのつながりを広げ、深める教育活動を展開する。	・地域の理解者・支援者の拡大を図る。	(1)「児童生徒の自立と社会参加」の実現に繋がる取組を組織的に展開するとともに内容の充実を図る。 (2)居住地交流、学校間交流の目的や内容を整理するとともに成果の積み上げと学習内容の充実を図る。 (3)学校周辺の自治会関係者や地域住民の学校主催イベントへの参加者数を増やす。 (4)福祉避難所事業による地域との協働の推進を図る。	(1)①「児童生徒の自立と社会参加」の実現に繋がる取組を組織的かつ具体的に展開することができたか。 (1)②取組内容を系統化し積み上げを図ることができたか。 (2)①居住地交流、学校間交流の目的や内容を整理したか。 (2)②成果を評価し学習内容の充実と積み上げを図ることができたか。 (3)学校周辺の自治会関係者や地域住民の学校主催イベントへの参加者数は増加したか。 (4)福祉避難所事業に係る新たな取組を行ったか。
5	学校管理 学校運営	・教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。 ・安全で安心できる指導体制、管理体制の整備を進める。	・児童生徒の安全と健康に配慮した指導体制や管理体制の改善が持続的に行われる仕組みを整える。	(1)知的障害教育部門生徒の実態に即したヒヤリハット・アクシデント報告書を作成するとともに、ヒヤリハット・アクシデントの解消に向けたPDCAサイクル化を図るための行動化につながる取組を行う。 (2)安全な指導体制づくりにつながる専門性の維持向上を図るための取組を行う。	(1)①知的部門用のヒヤリハット・アクシデント報告書を作成したか。 (1)②ヒヤリハット・アクシデント報告書を活用した事故予防的な対策の行動化につながる持続的な改善の仕組みを整えることができたか。 (2)安全な指導体制づくりにつながる研修を系統的かつ段階的に行ったか。